

生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画策定懇話会（第3回） 摘録

【日 時】令和2年10月14日（水）午前10時00分～

【場 所】生駒市コミュニティセンター 404会議室

【参加者】（敬称略）

花嶋 温子座長、河瀬 玲奈、黒部 實、吉田 正子、清水 綾、藤田 照子、上武 敏一、坂本 剛伸、山下 博史、樽井 雅美、林 光子、築地 明子

【欠 席】なし

【事務局】岡田市民部長、奥田環境保全課長、木戸課長補佐、鳴川係長、千葉係長、河島所長、山下係員、地域計画建築研究所 長澤、伊藤

## 1. 開会

傍聴者確認 9名

資料確認

## 2. 案件

### （1）現行計画の評価の修正について

座長より事務局に案件（1）の説明を依頼

資料1 現行計画の評価について(修正版)について、事務局より説明

座長 前回の懇話会の意見をふまえて、修正していただいた。前回欠席の樽井委員、何か意見あるか。

委員 特になし。

座長 前回の懇話会の意見を反映しているので良い。

委員 いくつか分からないことがあるのでお聞きしたい。p.1の注意書きに「ごみ発生量：ごみ発生量+集団資源回収量」とあるが、このような表記を初めて見た。地域のごみステーションに出している古紙類やミックスペーパーの資源回収はどこに含まれるのか。

座長 「ごみ発生量：ごみ発生量+集団資源回収量」は全国的に決まっている。

事務局 注意書きの中で示している通り、「資源化量」に「市施設・委託先での資源化量+集団資源回収量」が含まれている。

委員 ごみ発生量には含まれていないということか。

- 事務局           ごみ発生量にも含まれている。
- 委員            生駒市のごみ発生量が増えているのは、地域の集団資源回収量が入っているからと認識している。
- 座長            ごみの発生量に全て含まれている。
- 委員            p.2 の図1 でグリーンの所に資源回収が入っているという理解でよいか。
- 事務局           集団資源回収ではなく市で資源化されたものは、グリーンの所に入っている。
- 委員            薄いグリーンの表記で「等」とあるので、そこに資源回収が入っているように取れる。p.1 に揃えて「等」を抜くべきである。  
また、p.3 の8行目に記載されている「生ごみ分別ルール」とは、どのようなことか。
- 事務局           ここでの「分別ルール」とは、生ごみ以外のびん・缶、プラスチック製容器包装などを含むものである。それら全体の資源物の分別ルールを周知していきたい。
- 委員            誤解の無い表現に訂正していただきたい。  
次に、p.3 の重点施策の取り組み状況に「もったいない運動」やp.4 「レジ袋の有料化」が入っているのはなぜか、これは個別施策であり、重点施策ではない。ここに記載した理由をお聞きしたい。
- 事務局           重点施策に基づいて実施したものとして記載した。
- 委員            ここでは、現行計画を評価しており、現行計画「半減プラン」では個別施策に乗っているのでは、個別施策にするべきではないか。
- 事務局           現行計画のp.12 の一番下、重点施策の中でもレジ袋の有料化に触れている。
- 委員            フードドライブの実施については、実績を示すべきではないか。
- 事務局           最終的には、計画書の資料編などで記載することを考えている。
- 委員            p.8 の⑤「生ごみ自家処理器購入補助」で「従前から実施」とあるが平成23年以前からやっているのか。半減プランの中で実施したのであれば「従前から実施」にはならないのではないか。

- 事務局 実施しているので、確認し掲載する。
- 委員 p.10の「総評」16行目「今後は、バイオマス（生ごみ）の資源化については、現在の施策を継続し」とあるが、現在の施策とは何を示しているのか。
- 事務局 生ごみ処理器等購入費補助、キエーロの推進を中心に考えている。
- 委員 エコパーク21の改修について、市としては今後も検討を進めるということか。
- 事務局 エコパーク21については、現在も、事業系のバイオマスの資源化を行っている。全体としては、その取り組みを継続して行っていくという考えである。
- 座長 全体として、前計画がどうであったのかということ記録していくことが、次に通じると思うので、今の意見を基に、データ等あれば追加をしていただきたい。細かいことであるが、数字の全角・半角を統一いただきたい。

## （2）基本理念、基本方針(案)について

座長より事務局に案件（2）の説明を依頼

資料2-1 基本理念、基本方針についての質問と回答、資料2-2 生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画における基本理念、基本方針(案)について、事務局より説明

- 座長 資源回収コミュニティステーション事業の活動地域であった山下委員は何か感想があればお願いしたい。
- 委員 私たちの地域で12月末から2月末にかけて行った活動は、ごみの減量化を意識したものではなく、ごみを持って来るというきっかけを活用した、軸足はコミュニティの活性化を目的で行ったものである。
- よって、ごみの減量化という面では、結果について多くの評価を得られていないのではないかとと思われる。この結果を用いて年間の排出量を推計することは難しいのではないかと。ごみを持って行きやすい場所に何時でも持って行ける、ということであったので、年末の時期的な事もあり、大掃除などに利用された方もいる。このようなことを考慮いただくと、参考値程度となるのではないかと。但し、生ごみについては「資源化できるもの」と入念に周知していたので、結果は活用できるのではないかとと思われる。

- 座長 基本理念、基本方針について意見や質問はあるか。
- 委員 資料 2-2 の基本理念の文末に「ごみ処理の観点から SDGs の達成を目指す」とあるが、基本方針は理念を達成するものである。基本方針の中に示されている SDGs の目標は、原文のまま記載しているのではないか。
- SDGs の達成は世界共通の目標であり、大変大きなことである。今回のごみ処理基本計画の中で SDGs はどのような位置づけか。今回の資料の基本理念に書かれている通り、この計画で国連の掲げる目標を達成するつもりなのか。それとも、マインドを示すものなのか。
- 事務局 基本的にはマインドである。SDGs 全体を一つのこととして考えていくと、新たな問題に直面していかなければならない大きな目標となるので、基本的には SDGs の考え方を基に進めて行きたいということである。
- 委員 ここに示されているものも、17 のゴール全てではない。
- 事務局 今回の基本方針ではそれぞれの部分が、SDGs のこういった部分で該当する。ということを示している。
- 委員 SDGs を意識しながら、認知度を高める。ということで良いのか。
- 事務局 その通りである。
- 委員 今の文章では SDGs の達成が最終目標になってしまっている。これはあくまでも一般廃棄物処理の計画である。前回の表現ではごみの関係で SDGs を達成し持続可能なまちづくりを目指すとなっていた、その表現であれば、最終的には持続可能な生駒市を目指すこととなる。記載は分かりやすくすべきでは。
- 事務局 表現は見直したい。
- 座長 「SDGs を目指しながら、持続可能なごみの減量を達成する」など、今後の方向性を示す表現に見直していただきたい。
- 委員 SDGs という言葉があらゆるところで聞こえる。掲げるだけで終わることが多く、それを懸念した。4つの基本方針について、全方位であれもやるこれもやるとしているが、現行計画では燃えるごみに対象を絞っている。市民にどこを向いて欲しいのか、分かるようにすべきである。対象をキーワードとして示して、メリハリをつけるとよいのでは。

委員 前回の懇話会で、不法投棄の防止をお願いした。住んでいる地域では不法投棄やポイ捨てが多いので、それらの削減について触れていただきたい。

座長 それは、重点施策などで出てくるのではないか。

事務局 その通りである。

委員 古紙の回収を目標にされているが、現在、流通が厳しく、リサイクルなどの処理が滞っていることはないか。

事務局 燃えるごみの中で集めている行政回収は問題なくリサイクル処理されている。

座長 前計画はごみを半分にしようと分かりやすかったとの意見であったが、今回の計画では、みんなでやろう、ということがポイントなのかとも読めるが、何が一番のポイントか。

事務局 1人ひとりが取り組んでごみを減らしていく。それを進めるために啓発に取り組む。啓発が中心となると思われる。

座長 啓発の結果、全員が取り組んだ実績はどのように管理するのか。

委員 何をみんなでやるのか。みんなで取り組むためには、みんなが理解できる、共通の言葉を作る必要がある。

座長 みんなでやることというのは、立場によって、取り組む内容が違って来るのではないか。

委員 全方位であると啓発がしにくくなる。現行計画での10年間は燃えるごみを対象として、共通の目標があった。

座長 3Rの一番の目標はリデュースで、燃えるごみを減らそう、ではなく燃えるごみをそもそも出さないようにしようである。

委員 SDGsは2030年に終了するが、10年計画なのでSDGsはもうブームは去っているのではないか。

事務局 PDCAで見直す予定である。

委員 SDGs はごみの削減だけでなく大きな問題であるが、SDGs を進めるにあたり、庁内の連携はどのようになっているのか。

事務局 市の担当部局、SDGs 推進課が取りまとめるが、ごみに関してはこちらで取り組んで行く。

委員 今回の資料は定性的なことばかりであるが、定量的なものは次回以降の資料の中で出てくるのか。

事務局 目標数値は次回示す予定である。前計画の反省を生かし、組成調査の結果などを基に示したい。

委員 日々思うことは、SDGs の考え方について、自分がこのまちで楽しく次世代を含めて生きて行ける、そんなまちが創れたらいいな。カテゴリーが環境やごみであっただけ。

萩の台の資源回収・コミュニティステーションを見た時、これが私のやりたかったことであつたと思った。次の時代のごみ減量とまちづくりの基本になるのではないかと思う。

ステーションをやっていると人が集まる。楽しいから人が集まり、近況について話もする。ごみも減るし、見守りの効果もあり、まちづくりにつながっていく。ごみ減量の目標値も大切だが、プロジェクトで何をするのかということも重要ではないか。

委員 前回の懇話会で、計画を進めるにあたり、PDCA の重要性が確認された。PDCA は数字の目標が無いと把握できない。

次回の会議に向けて、考慮いただきたいこととして、今回 SDGs をかなり前面に押し出しているが、SDGs を日本の現状に落とし込むことが難しいこともあるだろう。SDGs は世界の最大公約数で決められたものがある。日本版の評価指標を政府が作っているのだから、それらを参考にするとよい。

SDGs の生駒市の評価を政府で評価したものがある。そういうものも参考にしながら、数値目標を検討いただきたい。

委員 生駒版 SDGs のような、実際の市民の生活に係る簡単なものがあると良い。

委員 そのような資料があると良い。

委員 毎回新しい発見をさせていただいている。市の意思決定した内容をかみ砕いた分かりやすい表現で市民に伝えていただけるものがあるとよい。

委員 一般市民が中心となって取り組むことなので、言葉や表現など市民が分かりやすいように示していただきたい。

どこに意識を一番向けるかを示していただいた上で、細かく表現して欲しい。

委員 身近に感じ取れる、簡単で分かりやすい言葉で表現して欲しい。項目も少ない方が取り組みやすい。

委員 ごみの分別は生駒市では現状がファイナルと考えているか。2022年4月からはプラの回収区分が変わる可能性があり、一方ではプラスチックはさらに分別するという話も聞く。住んでいる場所は市内でもトップの高齢化率の地域で、高齢者にとっては分別が難しくなることもある。分別が進むのも良いが、別の面では困難が増えることも考えられ、その点が気になる。

座長 ごみの分け方は全国の自治体で全て異なっているので、ファイナルということは無いと思う。今後について何かあれば。

事務局 現時点では、新たな施策を打つという方向では考えていない。但し、第1回の懇話会でも出ていたが、今後、プラスチック製品の一括回収を国が進めれば、変更となる可能性もある。また、10年の計画期間を考えると、今後、社会情勢の変化に応じて見直すこともある。

分別という観点では市民の協力をいただき、しっかりできている。高齢化等、多様な人に合わせた施策も検討を進めていければと思っている。

座長 高齢化という要因を見据えて、だれもが出来るしくみが必要である。

委員 集団資源回収を行っている数は市全体でどのぐらいか。

事務局 全体で150団体である。自治会の中でも子ども会、老人クラブなど分かれている場合もある。全ての自治会では無い。

座長 次回までに確認いただきたい。

委員 集団資源回収に取り組んでいない自治会で回収を推進するのが手っ取り早いのではないか。

事務局 集団資源回収に取り組んでいない地域でも、個人レベルでは分別に協力してもらっている。燃えるごみの収集の中でミックスペーパーや古着等については、黄色いゴミ袋に入れると焼却されるが、そうでなければ資源化している。

委員 以前の京都市の長期計画では、ごみを分別しない社会を目指すとなっている。市が民間と協力して研究を進めており、実用化の一步手前までできていた。以前、機械が自動分別する社会を目指すというのが京都市のホームページに出ていたが、最近、市のホームページには出ておらず、失敗したのではないか。

座長 それに関しては、1980年代にスターダスト計画で取り組んで失敗し、その後、ヨーロッパなどでは収集にお金がかかるので、収集は一緒にして機械で分けるということをしているが、京都の話は成功したとは聞いていない。それもシステムが整っていれば、可能であろう。日本ではそのような道を通って来ていなかったので、急に始めると混乱を招く可能性もある。

委員 市民はプラスチック製容器包装とプラスチック製品は同じであると思っている。国に先んじて生駒市独自でプラスチックの一括回収を進めてはどうか。

事務局 国の方向性も中身を見ても何とも言えないが、生駒市ではプラスチックの分別にご協力いただいている。現時点では、今の施策のまま進めていきたいと考えている。

座長 自治体によっては、プラスチック製品を一括で集めてから、容器包装をそれ以外に分けている所もある。それはすごくお金がかかる。

事務局 生駒市でもプラスチック製容器包装を収集した後、さらに分別を行っている。

委員 ごみはどうしても出てくるので、子どもたちが関わってくる。子どもがやっている親はせざるをえない。市内で新しいコミュニティが成立するのなら、そこで子どもたちを通じて大人にも取り組みが広がるのではないか。

また、駅前で行っているプラレール広場はすべてリユースである。子どもはおもちゃを捨てるのではなく、使わなくなるとリユースのためにそこに持って行く。おもちゃ病院でも、おもちゃは直すものとして身につけているのではないかと思う。

座長 参考までに、横浜市的一般廃棄物ごみ処理計画“こども未来計画”は、かなり特徴的なものとなっている。



### (3) 計画の体系(案)について

座長より事務局に案件(3)の説明を依頼

資料3 生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の体系(案)について、事務局より説明

事務局説明

委員 数値目標はどのように考えているか。

事務局 次回説明する予定である。先ほどの説明にもあったように、現行の半減プランはハードルが高かったため、もう少しみなさんの努力によって達成可能な目標を設定したい。

委員 10年前の目標の評価を行っているが、施策ごとの目標値が書いていない。個別の施策でも目標値を設定するのか。積み上げで目標を作るのではないか。

事務局 個別施策とも整合性を確認し検討を進めたい。

委員 10年前に計画作成に携わった人もいないし、10年後に評価する際も今回のメンバーはいないであろう。10年後の人たちが分かるような資料を作らないといけない。10年後もしっかりと説明できる目標を作る必要がある。

事務局 前回の計画では見直しをしなかったことが大きな反省点である。次の計画は必ず見直しをしながら進めて行きたい。

委員 前回の懇話会でゼロカーボンシティの目標値はゼロで良いのか、との意見があったが、何か分かりやすい文言はあるのか。

委員 何を頑張ればいけないか分からない。具体的にどのように協力していくのか。高齢者が今の生活をどれだけ変えられるのか分からない。どのようにしたら削減できるかの工夫が見えない。

委員 技術面ではネットゼロの都市ガスの供給は可能であるが、それが2050年までに実装されているのか不透明である。

委員 ゼロカーボンとは市が言っている。国も技術革新を見込んでるのではないか。

委員 ゼロカーボンに近づける記述をしていただきたい。

委員 今日、施策の議論はないのか。

事務局 今日はない。

委員 施策の検討に当たり、お願いがある。

「多様性」というキーワードを使って地域コミュニティを考えて欲しい。ごみの減量ももっと多様性があるって良いのではないか。今、燃えるごみと資源ごみのステーションが違って、しかも遠い。近場に欲しい、取りに来てほしい、など、いつ出してもよいという意見もある。それぞれの地域の特性に見合った多様性を反映することも必要だと考えられる。

基本計画には重点施策のみ記載するのか。個別施策の記載はどうするのか。

事務局 個別施策を記載するかは、懇話会の議論の結果を反映してきたい。まずは、4つの基本方針に基づいた重点施策を案としてお示ししたい。

委員 目標数値について、今回の目標が高すぎたということは無いと思っている。問題は、10年前のデータではエコパーク21の改修があり、70%資源化できるとあった。そこで7つの施策ができた。そこでも生ごみが40%を占めていた。エコパーク21の改修が無くなった時点で目標を直すか、エコパーク21に変わる施策を考えるべきであった。それが原因であって、決して目標が高いとは思っていない。

委員 数値目標について、今後10年間は総人口が減っていくであろう。人口が減るとごみ総量は減っていくと考えられる。人口が減るということは、家庭数が閉じるということであり、家庭内のごみが出るということである。1つの家庭が閉じると、高齢者1人世帯でも平均2t～4tトラック1台分くらいのごみが出る。人口が減るから単純にごみが減るということではないことは留意すべき。

座長 これで、本日の議論は終わります。

事務局より、次回の日程についてお伝えする。

#### (4) 次回日程について

座長より事務局に案件(4)の説明を依頼

資料4 生駒市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画策定までのスケジュールについて、事務局より説明

事務局説明

事務局

次回 12/23 (水) 午後 2 : 00 ~ 予定

本日の議論を踏まえて、10 月末頃に重点施策についての意見を募集する予定である。

座長

何か言い残しはあるか。

基本方針 1 に示している 3R について、優先順位があることが重要である。できるだけリデュースしよう、次に、リユース、どうしようもなければリサイクルに出すという流れが伝わるように表現の工夫をお願いしたい。リサイクルすれば良いと思われぬように表現を検討いただきたい。

それでは、本日の懇話会を終了させていただきます。

みなさま、長時間ありがとうございました。

3. その他

特になし

以上